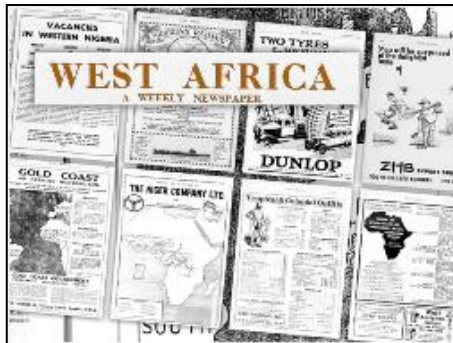


2026 年リリースの新商品!!

■ 約 90 年にわたり西アフリカを報じ続けた代表的週刊誌を完全収録

『ウェスト・アフリカ・マガジン』 1917～2003 年 West Africa Magazine, 1917–2003

植民地支配から独立へ——20 世紀西アフリカの変革の記録



17 万点を超える画像を収録する本コレクションは、1917 年から 2003 年まで刊行された『West Africa Magazine』の全期間を収録するデジタルアーカイブです。アフリカおよび世界が大きな変容を遂げた時代を理解するうえで、極めて貴重な洞察を提供します。報道記事、知的論争、読者書簡、論説、写真報道を通じて、ナイジェリア、ゴールドコースト（後のガーナ）、シエラレオネ、ガンビアにおける英国植民地統治から独立への移行を記録しています。また、特にフランス領西アフリカをはじめとする他のアフリカ諸国のニュースも掲載し、中部・南部・東部アフリカで展開された出来事や議論についても広く取り上げ、西アフリカ全域のフランス語圏・英語圏双方の動向を英語で広範に報じました。

もともとロンドンで刊行され、英国の商社や植民地省に勤務する英国人、いわゆる「coasters」を主な読者としていましたが、1945 年以降、本誌は「アフリカ化」の過程をたどり始め、編集陣はアフリカ人読者を意識するようになり、新たな民族主義運動や指導者たち、さらには独立後の政治的混乱に焦点を当てるようになりました。やがて、西アフリカのニュース、政治、経済、歴史、文化を世界に発信する重要な媒体となります。1979 年にはナイジェリアの国営紙『Daily Times』に買収され、その後はアフリカ人によって運営されるようになりました。

本誌は、ガーナ初代大統領 Kwame Nkrumah、ナイジェリア民族主義の父とされる Nnamdi Azikiwe と Obafemi Awolowo、セネガルの文化理論家・詩人・政治家 Léopold Sédar Senghor、コートジボワール初代大統領 Félix Houphouët-Boigny など、影響力の大きな反植民地主義指導者たちを紹介しました。また、主要な政治問題や歴史的出来事の詳細な分析に加え、文化的潮流にも光を当てています。たとえば、1924～25 年の大英帝国博覧会に対する西アフリカ人の見解や、西アフリカの社交クラブ・スポーツクラブの活動などが報じられました。さらに 1978 年以降は詩や小説にも力を入れ、1981 年からはブッカー賞受賞作家ベン・オクリが文芸編集者を務めました。植民地時代の出版物から、西アフリカの人々自身が政治・歴史・文化を語る場へと変貌を遂げた『West Africa Magazine』は、20 世紀アフリカ研究のための第一級の一次資料です。その刊行の歴史そのものが、西アフリカおよび世界各地で進行した重要な変化や潮流を映し出しており、その多くが誌面の中で詳細に記録されています。

大学・学術機関向け価格

FTE (学生数+教職員数)	3,000～4,999	5,000～9,999	10,000～19,999	20,000～29,999	30,001 以上
買い切り価格	価格は弊社までお問い合わせください				

※大学・学術機関向け IP 接続・同時アクセス無制限でのご利用となります。

※Archive 買い切りの年間管理費 (Annual Hosting Fee) は不要です。

※正式な見積価格は最寄りの弊社営業員に別途ご用命ください。

トライアルも承ります!! 詳細お問い合わせは弊社まで

日本総代理店 **極東書店**

FAR EASTERN BOOKSELLERS
KYOKUTO SHOTEN LTD

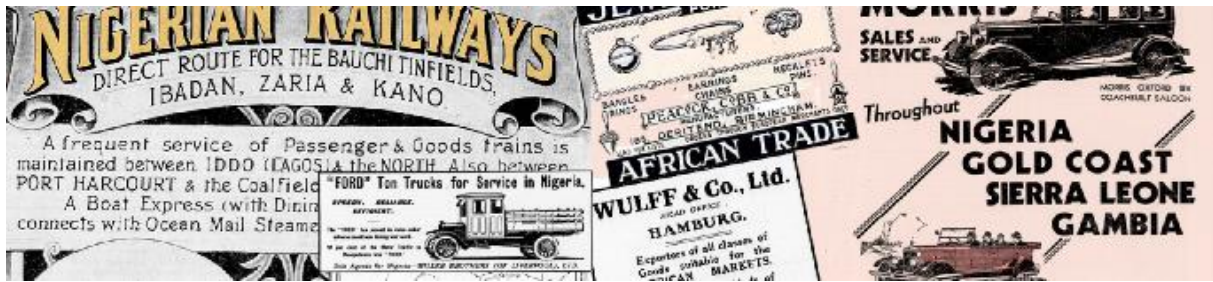
〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル
〒600-8357 京都市下京区柿本町 579 五条堀川ビル
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-3-14 小榎ビル

03(3265)7531 FAX (3556)3761
075(353)2093 FAX (353)2096
092(751)6956 FAX (741)0821

URL: <https://www.kyokuto-bk.co.jp>

E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp





第二次世界大戦後に『West Africa Magazine』で進行した「アフリカ化」は、それ以前から存在していたアフリカ人主導の出版活動の拡大を背景としていました。たとえば、1926 年に創刊され、Ernest Ikoli が編集を務めた『The Nigeria Daily Times』は、しばしば英国植民地政府を批判していました。また、Nnamdi Azikwe が創刊した『West African Pilot』や、シエラレオネ出身のジャーナリスト、I. T. A. Wallace-Johnson と共同創刊した『African Morning Post』は、Azikwe が米国留学中に接した黒人急進派ジャーナリズムの影響を受けていました。『West Africa Magazine』による民族主義論争の報道やその議論への参加も、このような急進的出版文化の広がりの中から生まれたものでした。

1987 年までに、『West Africa Magazine』は週刊 22,000 部という印象的な発行部数を達成し、その読者はアフリカ、ヨーロッパ、北米にほぼ均等に分布していました。最盛期にはナイジェリア国内だけで週 14,000 部が流通していました。1930 年代から 1940 年代にかけては主にヨーロッパ系駐在員によって読まれていましたが、その後は国内外のアフリカ人政治家、知識人、実業家を含む幅広い読者層を獲得しました。

また、『West Africa Magazine』は影響力のある広告媒体としても機能し、この地域で活動する多くの英国企業が誌面を通じて自社を宣伝しました。1950 年代後半以降、広告におけるアフリカ人の表象は大きく変化します。それまでの「伝統的」な人々としての描写に代わり、近代性、専門性、そしてグローバルな消費文化への参加を強調する広告が登場するようになりました。たとえば、United Africa Company の広告はその変化を象徴しており、進歩的なアフリカ人像を積極的に打ち出しました。1959 年の「Men of Tomorrow」広告では、開発、輸送、製造業の発展が描かれ、「開発の 10 年」と呼ばれた時代における向上心あふれるアフリカ人実業家の理想像が提示されています。これは、かつてアフリカ人をヨーロッパ人読者に分かりやすく伝えるために「植民地の顧客 (Colonial Customers)」と表現していた UAC の初期広告とは対照的でした。

そして、『West Africa Magazine』は、ビジネス、経済、教育、文化、政治といった重要なテーマについて批判的な議論を行う場でもありました。とりわけ重要なのは、20 世紀前半の西アフリカにおいて、人種がどのように公然と議論されていたかを知るうえで貴重な資料を提供している点です。同誌はアフリカ人とヨーロッパ人の人種関係をめぐる議論を取り上げ、その形成にも寄与するとともに、ヨーロッパ人の人種的優越性に対する広範な信念に異議を唱えました。人種問題はしばしばアフリカの未来を左右する中心的課題として位置づけられ、植民地支配を支えていた人種的前提に対しても批判的な立場を示しました。

さらに『West Africa Magazine』は、独立後の西アフリカ諸国で展開された統一と言語をめぐる幅広い議論の場ともなりました。記事では、アフリカの言語的多様性とその特徴であると同時に課題でもあると捉えられ、しばしば共通語の採用によって解決すべき「問題」として論じられました。1970 年代には、3 億人を超える人口と 1,000 以上の言語を抱えるアフリカ大陸は「言語問題へ向かっている」と表現されました。また、フランス植民地主義がもたらした文化的影響、とりわけ行政や教育におけるフランス語の継続的使用は繰り返し取り上げられるテーマでした。記事は、植民地支配の遺産と、文化的・政治的独立を確立しようとする努力との間に存在する緊張関係を浮き彫りにしています。



Lord Leverhulme, who has conducted an extensive tour of West Africa and is now home again, shown above on the right with the King of Oshana. Sir Hylop Bell, who accompanied Lord Leverhulme, is on the left.

■収録資料について

収録資料は、Graphic Communications Group Ltd.から提供を受けており、マイクロフィルムに複製されたものをデジタル化しています。そのため、画像データは、元のマイクロフィルムの品質によって異なる場合があります。

■注目資料ハイライト

"We Want the British!" (21 December 1918)

1918年12月に掲載されたこの記事は、第一次世界大戦後にカメルーンおよびトーゴランドでドイツの植民地支配からイギリスの統治へ移行したことを称賛しています。記事では、人々が「イギリスを支持する決断を下した」ため、英国統治に対してアフリカ人の「全会一致の支持」が存在すると主張しています。また、「私はドイツ政府よりもイギリス政府の方が好きだ」といった現地住民の発言も紹介されています。本記事は、帝国主義的プロパガンダの典型例であるとともに、旧ドイツ植民地の支配権をめぐる政治的緊張を示す重要な資料です。

Sierra Leone, Pirates, and the Slave Trade (28 January 1928)

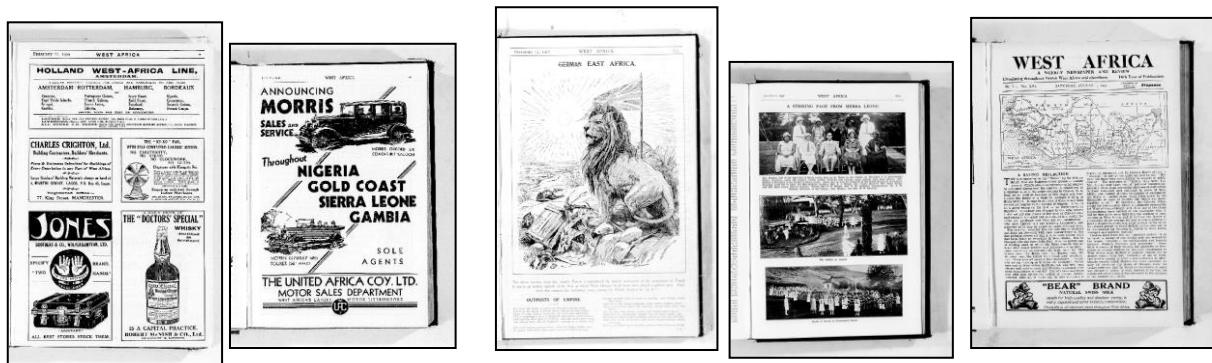
1928年1月に掲載されたこの記事は、西アフリカ沿岸、とりわけ1680年から1723年にかけてのシエラレオネにおける海賊行為と奴隷貿易の関係を考察しています。海賊たちは奴隷船や沿岸の居住地を襲撃し、この地域に暴力と不安定さをもたらしました。しかし一方で、海賊自身が奴隷貿易に関与する場合もありました。植民地支配の統制が弱く、ヨーロッパ列強間の競争が続いていたことが海賊行為の拡大を可能にし、その影響は貿易ネットワークや地域社会にも及びました。

"The Next Fifty Years" (4 February 1967)

1967年に発表されたこの記事は、西アフリカ独立後の不確実な初期段階を振り返りながら、2017年の地域社会の姿を展望したものです。著者は、新たに独立した国家が直面する政治的・経済的課題を検討し、この地域の将来は国家間の協力、工業化の推進、そして植民地支配が残した制約を克服できるかどうかにかかっていると論じています。

Nigeria's Heritage (6-12 February 1971)

1971年に掲載されたこの記事は、ナイジェリアの文化遺産が直面していた深刻な危機を明らかにしています。長年にわたり、宗教的な彫刻や彫像、古美術品が盗み出され、国際的な美術市場やヨーロッパの博物館へ違法に流出していました。特に1897年のベニン遠征によって生じた文化財の損失に注目しながら、記事はナイジェリアの伝統芸術をより強力に保護・保存する必要性を訴えています。また、植民地時代の略奪やアフリカ文化遺産の流出をめぐる長年の議論にも参加する内容となっています。



British Online Archives の詳細お問い合わせは弊社まで



日本総代理店 **極 東 書 店**

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル

TEL: 03-3265-7531 FAX: 03-3556-3761 <https://www.kyokuto-bk.co.jp> E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp